

停電と水不足の中で 環境を考える

ガザから……



パレスチナのガザでは封鎖による燃料の不足のため、1日8～12時間の計画停電が続いています。また水不足と塩分濃度の高さや化学物質の含有による水質悪化が深刻になっています。

ガザの抱える根本的な問題は一朝一夕では解決しませんが、子どもやお母さんたちにも水やエネルギーの問題に関心を持ってもらおうと、最近新たに二つのワークショップを実施しました。できることに限りはあっても自分たちでコントロールしようという気持ちを持つことは大切です。



水のワークショップ



飲料水を運ぶ給水車

水問題を考える

ナワール児童館で小学校高学年の子どもたちと、家庭の中心であるお母さんたち向けに水問題のワークショップを開きました。人の身体2/3が水でできていること。ほとんどの家の屋根の上に貯水タンクがあるのはなぜ?など、水がどこから来るのかをイラストで追いながら、ガザの水源である雨が少ない、人口が増えるなど地下水が減少しているメカニズムを説明して、水の重要性と節水の大切さを理解してもらいました。

また節水についての意見を出しあい、みんなが考えた節水案を実際に実験してみました。節水のやり方は知っていても家ではやっていないという意見がほとんどだったので、実際にやってみることで、どれだけ水が節約できるのか実感してもらえたと思います。

児童館には付近の年若いお母さんたちも居場所を求めて毎日のように来ています。6年後にもガザでは飲料水が無くなると国連の報告にあるので、子育て中のお母さんたちに少しでも意識を持ってもらえたら、と思いました。

停電の中で

3人の聴覚障害の子どもがいるお宅にホームステイさせてもらって、停電の生活を体験しました。この家庭では停電になるとバッテリーにあらかじめ充電しておいた電気、LED照明とランタンを使います。

照明といっても暗闇の中で人の顔や物の区別がつく最低限の明るさにすぎないので、聴覚障害に加えて視野狭窄を併せ持つ子ども達にとっては、この程度の明るさでは普通の手話はまったく通じません。彼らは真正面の狭い範囲しか見ることができず、握手しようと僕が出した手に全く応えてくれなかったのは、僕の顔だけしか見えなかったからでしょう。

暗闇の中で相手の手に触れて手話





ナワール児童館で

の形を一つひとつ確認しながら、少ない視野情報も動員して何とかコミュニケーションを図っています。しかし聞こえる者どうしはやはり音声会話することが多くなります。聞こえない子どもたちは、暗闇の中でも周りの人たちが“話している”ことが感覚でわかるので、会話に参加できない疎外感を感じています。滞在中、聞こえないアハマドが年下の聞こえる弟の腕をたたいて、何を話しているのかと何度も尋ねていたことが非常に印象的でした。

やはり聞こえないワファが暗闇の中、熱いお茶を入れたやかんとカップをお盆に載せて運んでいる時に、聞こえないマフムードと衝突してお茶が彼にかかってしまったことがありました。お互い狭い視覚情報に頼らざるを得ない彼らにとって、このようなことは日常茶飯事だそうです。

太陽光発電の実験

それでもアトファルナろう学校を卒業して、高校に進学した双子のアハマドとワファは暗闇の中でLEDの小さな光を頼りに教科書を読もうとしていました。物資不足のガザで自由に使えるのは太陽光のみ。何かできることはないか？という駐在員の思いを少しでもかなえようと、太陽光パネル

を使ったランタンの試作品を作って、アトファルナろう学校とナワール児童館で子どもたちに実験をして、理解を深めてもらうことにしました。

子どもたちに質問したなかでは自家発電機を持っている家はなく、停電の時はバッテリーやろうそくを使うしかないのでは寝て過ごすか、外に出て月明かりの下で過ごすかと答えています。

ガザでは理科実験などはとても珍しく、子どもたちは真剣そのもの。先生たちも興味津々で見に来てくれました。各クラス10～15人を三つのグループに分け、それぞれにキットを配布して実際に回路を作成してもらい、屋上へ出てソーラーパネルに太陽光に当てて電球が光る様子を見てもらっています。アトファルナろう学校では中学生6クラス、ナワール児童館では高学年の約30人がこの実験に参加しました。

ガザでは部品集めも難しく、技術的にも手作りランタンの実用化は当面無理ですが、子どもたちにはとても良い刺激になったようです。実験後「日本からソーラーパネルを持ってきて早く大規模な発電所を作ってよ」と子どもたちが言ってきました。「大きくなったなら自分がガザを変えてやるんだ」という声は聞かれず、国際援助に

頼らなければならない社会なのだと感じました。

子どもたちの感想から

- すごくいいアイデア。太陽光で発電してそれを夜に使えば、停電時も勉強ができる。今日帰ってからすぐにでも作ってみたい。(15歳、アトファルナろう学校、女子)
- お父さんたちは遊んでばかりいないで勉強しなさいというけれども、電気が無いのにどうやって勉強しろっていうのかな。ろうそくやランタンを使って目を悪くするだけだから、停電中は何もできないよ。(12歳、ナワール児童館、女子)
- ガソリンを使わないで車を走らせるなんて信じられない。オートバイやパソコンの充電などに使えばもっといいし、今後自分でもっと調べてこんなものが作ればいいな。(15歳、アトファルナろう学校、男子)

